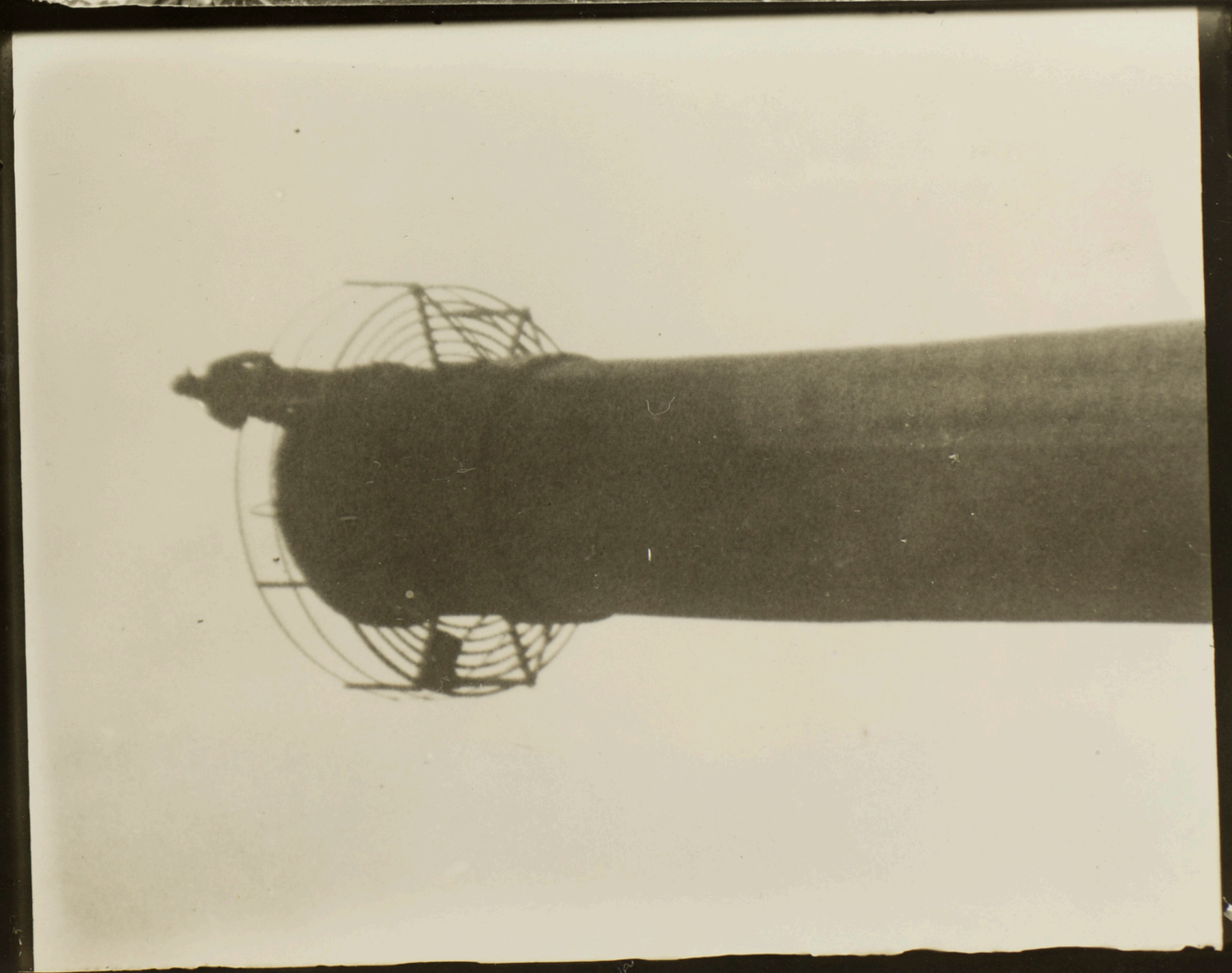
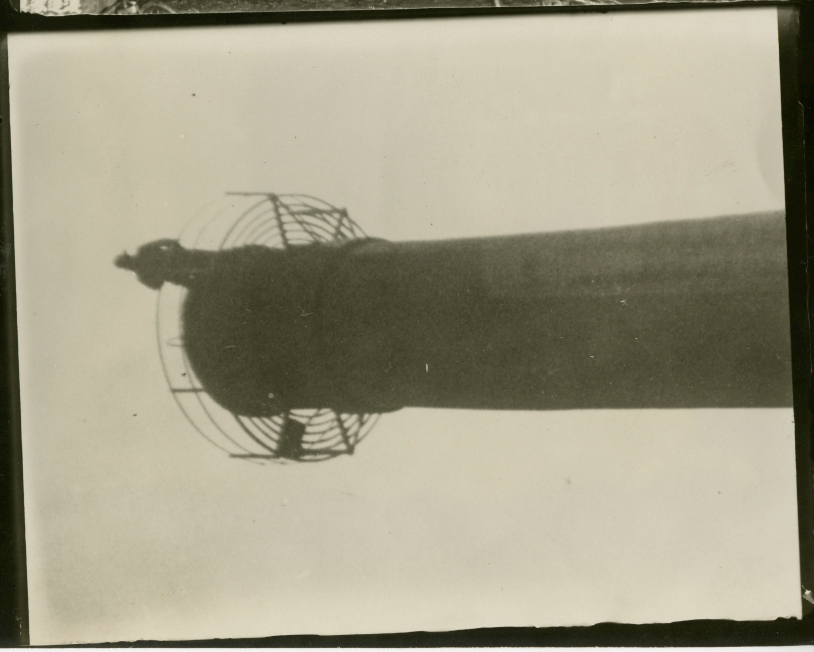


WR230.025



聯合　寫眞說明　第四號　五年十一月二十日

◎凍え死ぬ樣な雨の夜の寒さも

一平氣の超人まだ降りる氣配なし

初冬の氷のやうな雨は瀟々として夜に入つても止みそうもない富士紡川崎工場百三十尺の煙突上に滯空百二十餘時間の記錄を作つて尙泰然としてゐる超人田邊潔君下界の同志の心配も本人は案外感じぬらしくあくまでも初志の貫徹するまで斷じて降りぬと頑張つて身を切るやうな雨の夜の中空にたゞずんでゐる附近はこの男のため湧きかへるやうな騷々しさで川崎署も會社も今はこの男のなすがまに傍觀するより仕方がない樣である。

寫眞は

今日雨の降る夕刻の煙突と夜に入つた附近の見物人（午后六時寫す）